

むかわ町穂別産“むかわ竜”全身復元骨格が完成！

～むかわ竜，ついに立ち上がる～

【概要】

北海道大学総合博物館の小林快次教授とむかわ町は、むかわ町穂別産「むかわ竜」の全身復元骨格を製作し、公開しました。今回の全身復元骨格は、実物標本とともに国立科学博物館（東京都台東区上野公園）で開催される「恐竜博 2019」で展示され、一般公開されます。



公開したむかわ竜全身復元骨格



公開したむかわ竜全身復元骨格と関係者。左から、むかわ竜第一発見者；堀田良幸氏（むかわ町穂別在住），小林快次教授（北海道大学総合博物館），竹中喜之町長（むかわ町），真鍋 真コレクションディレクター（国立科学博物館），櫻井和彦館長（むかわ町穂別博物館），西村智弘学芸員（むかわ町穂別博物館）

【趣旨】

むかわ竜は、北海道むかわ町穂別で発見された国内最大の恐竜全身骨格です。平成 25 年 7 月にハドロサウルス科の尻尾化石が確認された後、平成 26 年と 27 年の夏に、北海道大学総合博物館とむかわ町穂別博物館を中心に大規模な発掘を行いました。発掘の結果、全長 8 メートルの大型恐竜の全身骨格が発見されました。その後、平成 30 年 9 月に骨化石を岩から取り出す作業が終了し、現在は全体の 8 割を超える骨が保存され、日本恐竜発見の歴史上最も完全な恐竜化石であることが確認されました。むかわ竜は、日本産の恐竜全身復元としては福井県勝山市産のフクイサウルス、フクイラプトル、フクイベナートル、兵庫県丹波市産のタンバティタニスに次ぐ 5 種類目となりました。

なお、全身復元骨格製作は、平成 29・30 年度にむかわ町が有限会社ゴビサポートジャパンに委託しました。むかわ竜化石について型取り・樹脂のレプリカを製作し、組み立てた鉄骨に各レプリカを配置していくことで製作しました。

今後、北海道大学総合博物館とむかわ町穂別博物館は、むかわ竜の研究を進め、骨の記載や比較研究、系統解析による新属新種であるかの検討や近縁種の同定、分類や生態におけるむかわ竜の意義などを解明していく予定です。

また、今回の全身復元骨格は、実物標本とともに国立科学博物館（東京都台東区上野公園）で開催される「恐竜博 2019」（令和元年 7 月 13 日～令和元年 10 月 14 日）で展示され、一般公開されます。

【むかわ竜のこれまで】

(1) むかわ竜の発見（平成 25 年 7 月）

平成 25 年 7 月、北海道むかわ町穂別（図 1 左）に分布する上部白亜系^{ほこぶち}函淵層の海成層（約 7,200 万年前の外側陸棚堆積物、水深およそ 80～200 メートルの範囲内）からハドロサウルス科の骨格化石（13 個の尾椎骨：図 1 右）が確認され、報道発表を行いました（H25.7.17「むかわ町穂別から恐竜化石を発見－ハドロサウルス科恐竜か」<http://www.town.mukawa.lg.jp/3391.htm>）。



図 1. むかわ町穂別の位置図と発見された恐竜の尾椎骨化石

(2) 第一次穂別恐竜発掘の報告と全身骨格の可能性（平成 26 年 1 月）

平成 26 年 1 月には、平成 25 年夏の第一次穂別恐竜発掘の報告を行いました（図 2）。その際に、この恐竜が全身骨格である可能性が高いことを示唆し、少なくとも 3 割程度が発見されたと報告しました。（H26.1.17「平成 25 年度恐竜発掘成果報告－むかわ町穂別から恐竜全身骨格化石を確認」<http://www.town.mukawa.lg.jp/3391.htm>）。

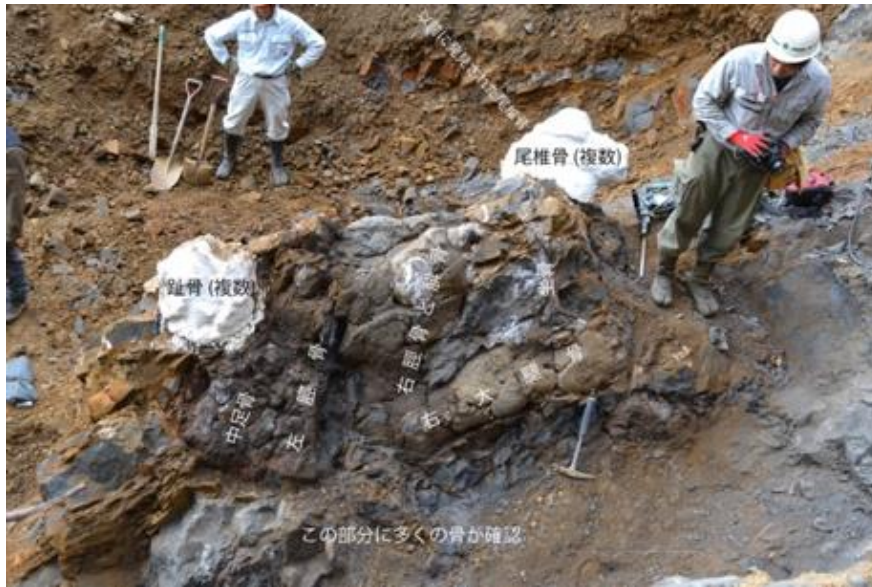


図 2. 平成 25 年の発掘風景。確認された主な骨の名称（部位名）を示す。

(3) 第二次穂別恐竜発掘の報告と頭骨の発見（平成 26 年 10 月）

平成 26 年 10 月に、第二次穂別恐竜発掘の報告を行いました（図 3）。この時には、頭骨の部分骨（上顎骨の一部）を報告し、体の骨だけではなく頭の骨が含まれていることを確認しました。これによって、この恐竜化石が全身骨格であることがより確実になりました（H26.10.10「むかわ町穂別産恐竜の頭骨一部を発見」<http://www.town.mukawa.lg.jp/3391.htm>）。

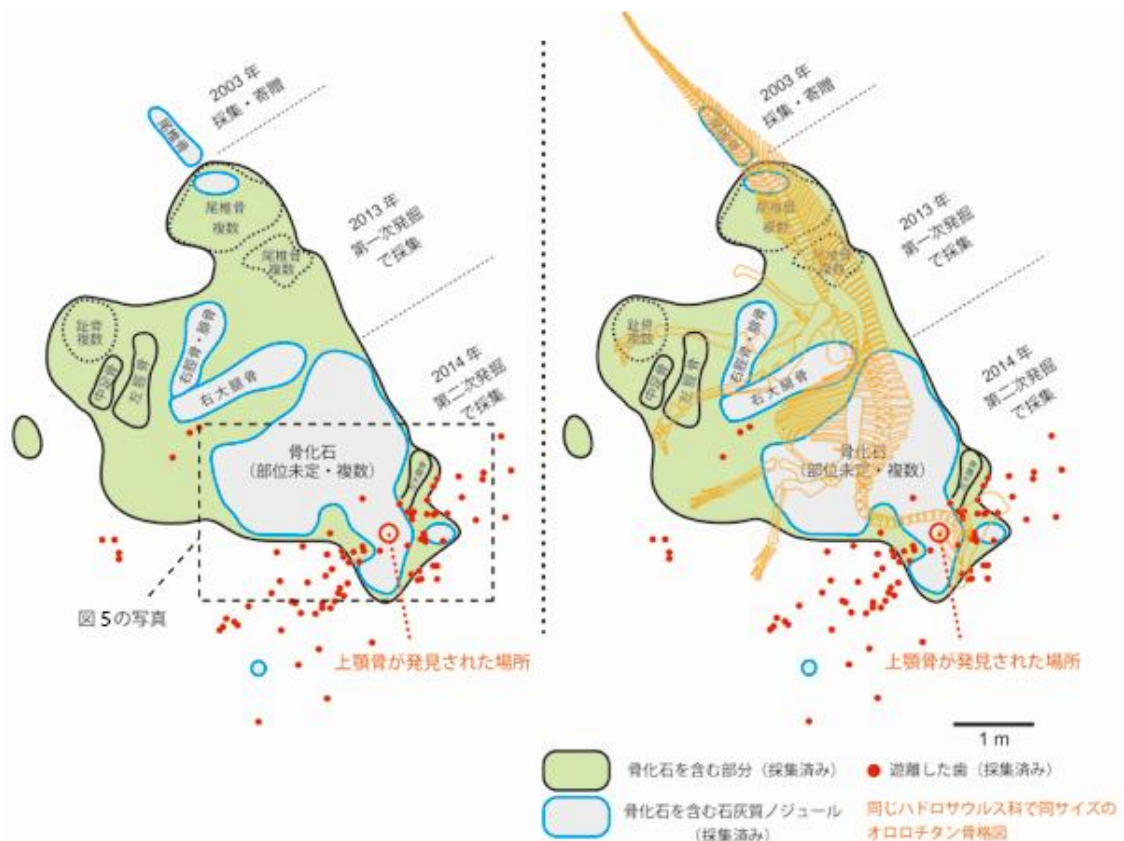


図 3. 産地で発見されたハドロサウルス科の骨化石の分布及び上顎骨と歯の発見された場所（オロロチタンの骨格なし（左）、あり（右））

(4) クリーニング作業の経過報告とむかわ竜の全身骨格 (平成 29 年 4 月)

第一次・第二次穂別恐竜発掘とその後の追加発掘によって掘り出されたむかわ竜の骨化石について、多くの石膏ジャケットに含まれている化石のクリーニング作業が行われたため、その成果を平成 29 年 4 月に発表しました。図 4 は、この時点で確認できた骨のみを並べた写真です (H29.4.28 「国内最大の恐竜全身骨格を発見 (むかわ竜)」 <http://www.town.mukawa.lg.jp/3391.htm>)。



図 4. 平成 29 年 4 月の時点で発表したむかわ竜の骨格

(5) クリーニング作業の終了とむかわ竜の全身骨格 (平成 30 年 9 月・平成 31 年 3 月)

骨化石を岩から取り出すクリーニング作業がほぼ終了したことを報告しました。未だ同定ができていない骨が数多くありますが、体の全体像がくっきりとわかるくらいの全身骨格標本であることが確認されました (図 5)。平成 29 年に報告した全身骨格写真 (図 4) と比較してもその違いは明らかで、特に、頭骨・肩帯・前肢・胴椎骨・腰帯・大腿骨・尾椎骨が揃っていることがわかります。骨の個数では全体の 6 割程度が確認され、ボリュームでは 8 割を超える全身骨格と言えます。これだけ骨が揃った全身骨格化石は、大型恐竜としては本邦初です。

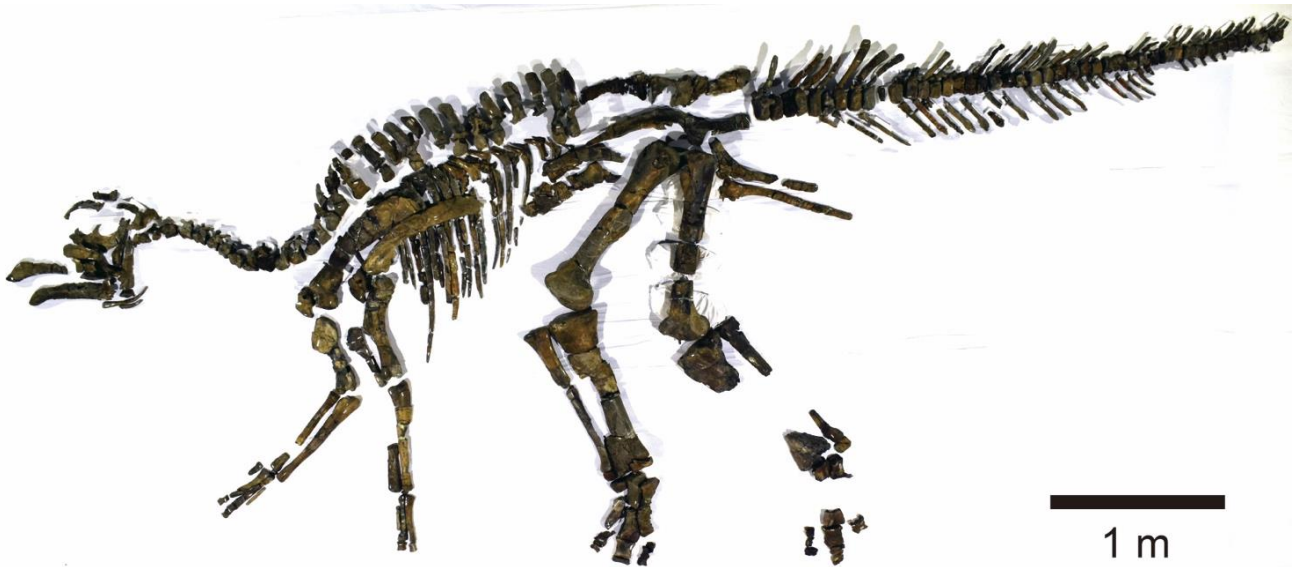


図 5. むかわ竜全身骨格写真 (平成 31 年 3 月)

お問い合わせ先

北海道大学総合博物館 教授 小林快次（こばやしよしつぐ）

T E L 011-706-4730 F A X 011-706-4730 メール ykobayashi@museum.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp